

1 糸島市職員が決勝戦に進出

■「地方創生☆政策アイデアコンテスト」とは

- 地域経済分析システム『RESAS（リーサス）』を使って、地元の「課題」を発見し、地元を元気にする政策アイデアを提案するコンテスト。
- 主催：内閣府地方創生推進室
- 全国からエントリーした486組の個人・団体のうち、5組が決勝へ。
- 審査員の前でプレゼンテーションを行い、分析力と企画力の全国1を競う。
- 主催者として、山本幸三 地方創生担当大臣も出席

■本市の職員が決勝戦進出

- 自主研究としてエントリーした 岡 祐輔 主査が決勝進出。
- 机上のデータ分析や研究だけでなく、生産現場の調査や聞き取りを重ね、地域の実情に即した企画内容とした。
- 大学や地銀、コンサルなど地方創生に関わる強豪チームが出場する中、個人での決勝進出は、ただ1人。
- 自治体職員としての決勝進出も、岡主査だけであった。



2 最優秀賞『地方創生大臣賞』を受賞

■審査の結果最高位の「地方創生大臣賞」を受賞する快挙

- 1月21日（土）東京大学で決勝大会が開催、審査の結果、岡主査のプレゼン『糸島版マーケティングモデルで、地域産業のやる気も出る～福岡県糸島市に新ブランドを創出し、地域経済を豊かにする～』が最優秀賞受賞

- 審査員の講評
「地方創生とは地域の自主的な“稼ぐ力”を高めること。これはまさに地域の稼ぐ力を高める提案だった。」
「書類審査もプレゼン審査もダントツの評価だった。他の自治体でも、このモデルを同じように取り組み動きが始まるかもしれない。」

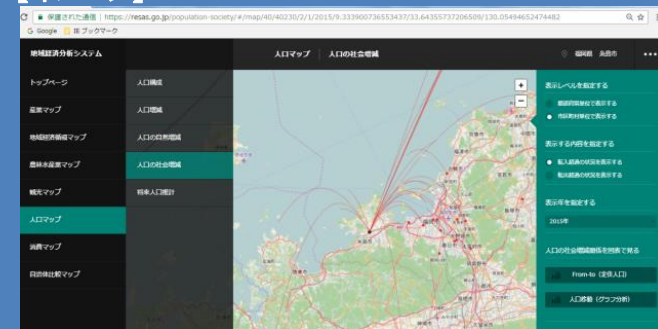


【市長コメント】⇒今回の受賞は大変喜ばしいことである。ビッグデータの活用は、あらゆる分野で政策・施策展開に必要であり、より高い分析力・企画力が求められる。今後とも、職員のごこうした力に磨きをかけていきたい。

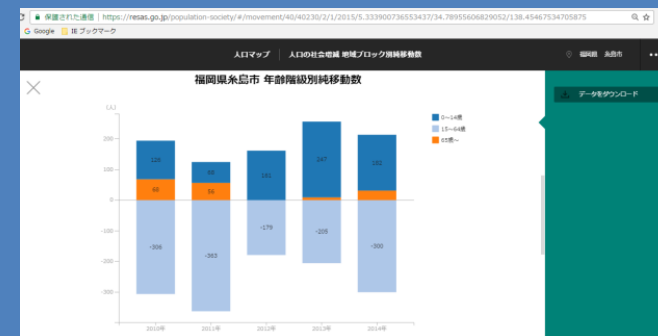
■RESAS(Regional Economy Society Analyzing System):地域経済分析システム とは

地方創生推進の一環で内閣府(内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局)が始めた事業。産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約して「見える化」したWeb上のシステム。誰でも自由に利用できる。

【イメージ】



↑糸島市の人口社会増減の動きを視覚化



↑市の年齢別社会移動数をグラフ化
(RESASホームページより)